

2022年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	筒井 大祐
研究テーマ	蒙古襲来を画期とした文学形成の基礎的研究
研究概要	本研究課題は、蒙古襲来という国際的な事件が、文学作品の成立にどのような影響を及ぼしたかを、中世の神功皇后伝承を支える「異国合戦」「神国観」というキーワードをもとに究明する。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>本研究課題は、中世社会に大きな影響を与えた蒙古襲来という事件が、文学作品に及ぼした影響を、文学作品から考察しようとしたものである。古代の神功皇后伝承が、蒙古襲来という事件を呼び水としてクローズアップされた中世には、その神功皇后伝承と蒙古襲来を結びつけた歴史観も醸成され、その例としては、『太平記』や『八幡愚童訓』などに顕著にみられる。今年度は、特に『太平記』の蒙古襲来記事の基盤を解明するために、種々の資料収集を行った。ただし、それらを論文として完成させることができなかった。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>〔発表等〕</p> <p>ポスター展示（学術貢献活動）「八幡縁起の世界」佛教大学Open Research Weeks2022、佛教大学研究推進機構（2022年11月1日～11月30日、佛教大学紫野キャンパス・二条キャンパス）</p> <p>その他 取材協力（社会貢献活動）：『八幡愚童訓』に関する知見の提供（NHK総合番組名：ブラタモリ「国境の島・対馬～日本史最前線！国境の島が果たした役割とは？」初回放送：2022年10月22日）</p>
3. 今後の課題	<p>今年度に収集した資料をもとに、蒙古襲来が中世文学の生成に与えた影響を、引き続き解明していきたい。また、『八幡愚童訓』成立前後の文学作品を視野に、『八幡愚童訓』に収斂されない神功皇后伝承のあり方を検討する。それにより、『八幡愚童訓』の成立を解明する一端としたい。</p>